

平成21年第1回十和田市議会定例会が開かれた3月6日に、小山田久市長が施政方針を述べました。その一部をお知らせします。

市民目線による「信頼される政治姿勢」を基本とし、

「元気な未来に向けて、みんなが豊かさを実感し活躍できる十和田市」

「希望のある未来に向けて、子どもや孫が故郷に住みたいと思える十和田市」

「安心な未来に向けて、みんなが不安なく、安全に暮らせる十和田市」という

まちづくりの3つの視点を大切にしながら、

市民の皆様とともに「元気な十和田市づくり」にまい進してまいります。

元気な十和田市づくりにまい進します

まちづくりの3つの視点

1 「元気な未来に向けて、みんなが豊かさを実感し活躍できる十和田市」

豊かさを実感できる十和田市を実現するためには、一人ひとりが生き生きと学び、働き、地域で活躍できる多様なステージが必要であると受け止めています。

特に、産業分野では県内でもトップクラスの生産量を誇る農業資源を活用し、農畜産物の「十和田ブランド」の確立や、2次産業、3次産業との連携など、攻めの農業を展開してまいります。このため、ブランド化や流通販売対策に対応する専任の職員を配置の上、庁内にプロジェクトチームを発足させます。

また、野菜乾燥・冷蔵施設の整備に向けた補助を実施し、安定出荷等を促進してまいります。



文化の振興については、人々の活力と輝きを増していくことも大切であると考えています。

特に、芸術・文化活動の拠点である市民文化センターについては、老朽化が進んでいることから、国の地域活性化・生活対策臨時交付金を活用し、改修を実施してまいります。

(仮称)教育・福祉総合プラザについては、私の公約の中で、市の財政状況や商店街の活性化策等を考慮し、再検討すると明言してきました。

市長に就任して以来、市の財政の状況の把握に努めてきましたが、市税収入等の伸び悩み、中央病院への大幅な負担増など、今後も厳しい財政状況が続くものと判断しました。

従いまして、(仮称)教育・福祉総合プラザの整備については、財政状況の見通しがついた時点で、商店街の活性化や建設地等も含め、総合的な観点から再検討をしたいと考えています。

同プラザの建設の必要性については、十分に認識していますが、市政の健全化はもとより、市民の健康と生命を守る第一である中央病院の経営健全化が最優先であると考えますので、ご理解をお願い申し上げます。

なお、ハローワーク跡地および農政事務所跡地の土地については、これまでの経過を踏まえて、これを取得してまいります。

2 「希望のある未来に向けて、子どもや孫が故郷に住みたいと思える十和田市」

子どもがすこやかに育ち、十和田市に住み続けたいと思うためには、多様な雇用の場の確保や魅力ある都市づくりを進めるとともに、子育て環境や教育環境の充実と青少年の健全育成を図ってまいりたいと考えています。

このため、国のふるさと雇用再生特別交付金や緊急雇用創出事業を活用し、雇用の拡大を図るとともに、公約に掲げた私の給与カット相当分については、新たに子育て応援事業に充て、認可外保育所における児童の健康診断事業等を支援してまいります。

3 「安心な未来に向けて、みんなが不安なく、安全に暮らせる十和田市」

誰もが安心して暮らせることは、市政にとって最優先すべき課題であり、生命や財産が守られ、健康な暮らしを確保できて、初めて地域の活力や未来を語る事ができると考えています。

このため、市政も大変厳しい状況ではありますが、現時点における本市の最大の課題である病院事業の経営健全化に向けて、不良債務の解消等のために繰出金を措置するとともに、医師の確保においては、医師が働きやすい環境を整えつつ、今後、最大限の努力を尽くしてまいります。

また、妊婦健診における公費負担については、国の交付金を活用し、14回まで助成回数を拡大していきます。



小山田 久市長